

学びの多様化学校を巡る動向



動かせ、未来。北九州市

国の施策の動向

令和5年3月 文部科学省

➤ 「誰一人残されない学びの保障に向けた不登校対策」 (COCOLOプラン)

- 不登校特例校の設置について、今後早期に全ての都道府県・政令指定都市に設置されることを目指す
- 将来的には希望する児童生徒が居住地によらず通えるよう、分教室型も含め全国300校の設置を目指す

令和5年6月 閣議決定

➤ 「第4期教育振興基本計画（計画期間：令和5年度～9年度）」

- 不登校特例校の各都道府県・政令指定都市での1校以上の設置を本計画期間内において進める

令和5年8月 文部科学省

➤ 「『不登校特例校』の新たな名称について（初等中等教育局児童生徒課長通知）」

- 実際に当該学校に通う子どもたちの目線に立った相応しい名称とする観点から、従来使用されていた『不登校特例校』から『**学びの多様化学校**』に名称を変更する

「学びの多様化学校」とは

不登校児童生徒の実態に配慮した特別の教育課程を編成して教育を実施する必要があると認められる場合、文部科学大臣が、学校教育法施行規則第56条等に基づき学校を指定し、特定の学校において教育課程の基準によらずに特別の教育課程を編成して教育を実施することができる学校。

- ◆教育課程がある「**学校**」である（教育支援室や民間団体とは異なる。在籍校から転入学）
- ◆教育課程を「**柔軟化**」できる（総授業時数の削減、教科横断的な内容、新設教科等の設置）

（学びの多様化学校に通う**児童生徒の声**）

- 頑張ったってしょうがない、頑張っても自分はダメなんだという考えだったが、少しでも自分のペースでできたんだと考えられるようになった。
- 思い切って一歩進んでみると楽しいことがたくさんある。
- 満喫したかった学校生活を送っていることが何よりも嬉しくてたまらない。

（学びの多様化学校に通う児童生徒の**保護者の声**）

- 人前で話すことが苦手だったが、発表会で堂々と原稿を読む姿に感動した。
- 学校での出来事を家で話す機会が増え、少なかった家での会話が増えた。
- 子どもが元気になって、自分自身も元気になった。

【出典】文部科学省「学びの多様化学校の設置に向けて【手引き】」

全国の設置状況（令和7年4月現在）

学校種別設置状況

●小学校：12校 ●中学校：40校

●高等学校：11校

※小中一貫校は小学校及び中学校にそれぞれ計上しているため、
学校総数と一致しない。

設置形態別設置状況

●本校型：22校 ●分校型：5校

●分教室型：22校 ●コース指定型：9校

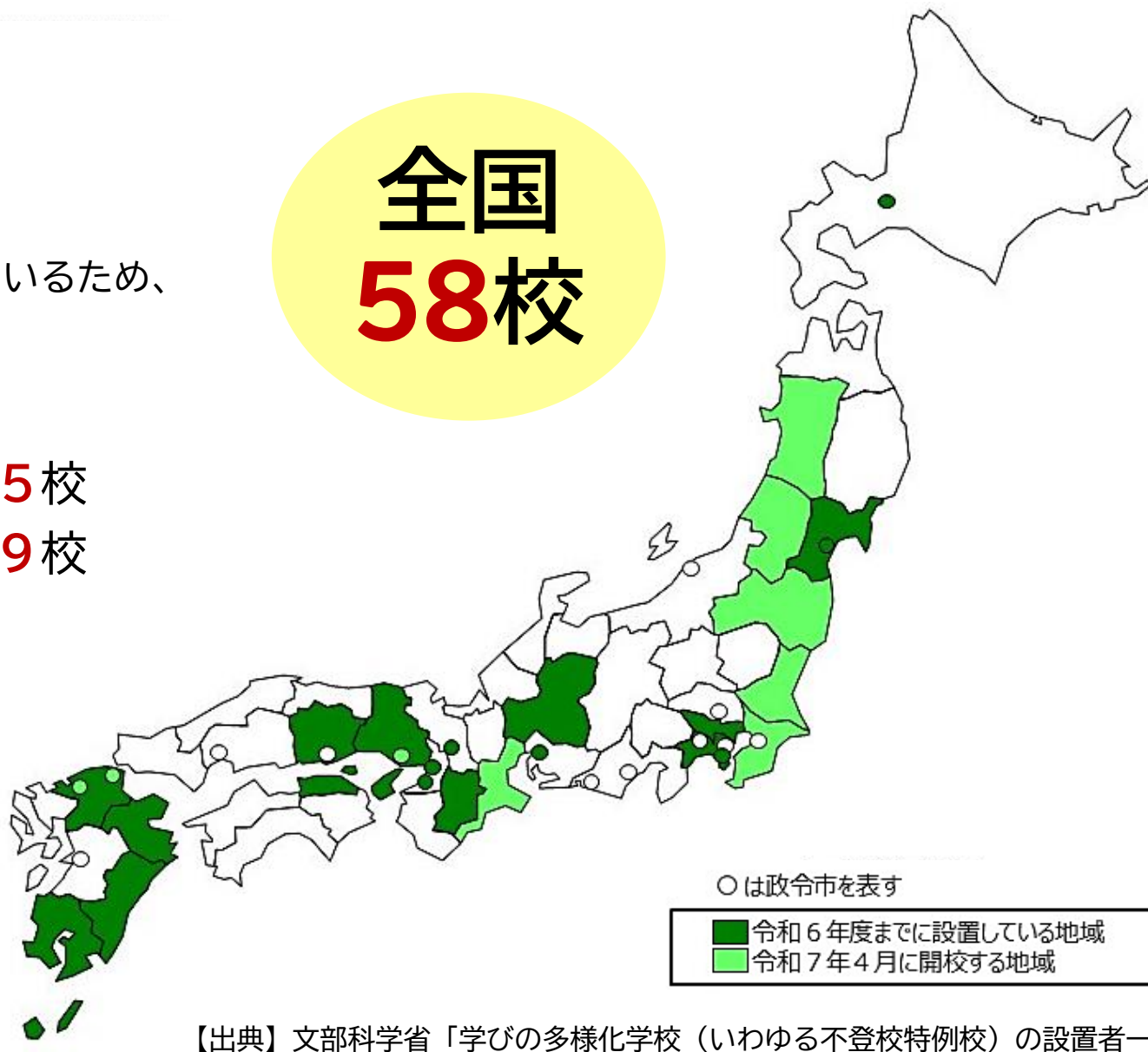
国公私別設置状況

●公立：37校

（都道府県立：2校、市町村立35校）

●私立：21校

全国
58校



北九州市の不登校施策との役割の整理や連携

多様な教育機会の確保により、不登校の子どもの実情・希望に合わせた支援が可能に

在籍校へ
登校
できる

自分のクラスに入りづらい

校内のステップアップルーム

空き教室等を活用し、個別の学習支援等を実施する。 ※市内全中学校に整備済み



「対面」
での学びを
志向

在籍校以外の学校で学びたい

学びの多様化学校

特別の教育課程を編成して教育を実施することができる学校。



在籍校へ
登校
しづらい

学校以外の場所で学びたい

教育支援室

集団生活への適応、情緒の安定、基礎学力の補充、基本的な生活習慣の改善等のための相談・指導。

フリースクール、民間団体（施設）等

NPO等の民間団体が運営。在籍校と連携しながら、学習や体験活動に取り組む。



「オンライン」
での学びを
志向

未来へのとびらオンライン教育支援室（ICTを活用した学習支援）

将来、社会的に自立することができるように、1人1台端末を活用したオンライン授業等を実施する。



北九州市におけるこれまでの検討状況

令和5年度「不登校児童生徒のための教育機会確保に係る検討会議」

いただいたご意見等

- すべての不登校の子どもたちに対応することや、解決となることは難しいと思うが、保護者にとっては、その存在はきっと希望の光になる。作るならば、妥協しないものを作っていたきたい。
- 体験的な活動を充実させることが重要。
- 特例校で行うことが、将来的には一般の学校にも普遍化していけるようなイメージで検討すべき。
- 子ども自身が好きなことを見つけて、好きなことから学びを広げていけるような学校、自分で考えて行動していけるような子どもに育つ学校にしてほしい。
- 保護者が気軽に相談できる場所としての機能も備えるべき。
- 検討会議の意見を踏まえ、ぜひ北九州市での設置に向けて前向きに検討を進めていただきたい。

令和7年3月21日 予算特別委員会

市長答弁内容

- 北九州市立「学びの多様化学校」について令和9年4月開校を目指す方針を表明（武内市長）

北九州市におけるこれまでの検討状況

令和7年5月15日 常任委員会（教育文化委員会）

報告内容

【開校時期】 令和9年4月

【設置場所】 北九州市立教育センター（八幡西区相生町）内

不登校生徒にとって、学校以外の施設の方が通いやすいとの声があることや、理科室、調理室等の特別教室を備えており、良好な教育環境を確保可能であることなどを総合的に勘案



教育センター(外観)



施設内廊下



調理室

北九州市におけるこれまでの検討状況

令和7年5月15日 常任委員会（教育文化委員会）

報告内容

- 【設置形態】** 専任の校長を置く独立した中学校
※なお、遠隔地に居住している生徒への対応の観点も含め、市内各所の教育支援室との連携の在り方も検討。
- 【対象者】** 不登校状態にある中学生及び不登校傾向が見られる中学生
- 【想定人数】** 各学年15名程度、計50名程度
- 【今後の予定】** 令和7年度 施設改修に向けた撤去工事・設計等、教育課程等検討
※検討会議発足
- 令和8年度 施設改修工事、文部科学省との協議、生徒募集
- 令和9年度 開校

他都市の事例

学校コンセプト（目指す学校像）

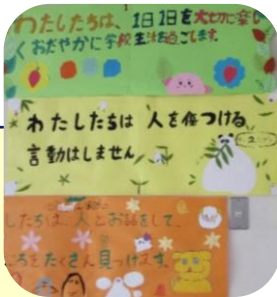
「人と学びと社会とつながる学校」

学校概要

(※令和5年5月1日時点)

教職員
配置状況

校長、教頭、教諭（10名）、
講師（常勤2名、非常勤2名）
養護教諭、専門主事、事務職員



在籍者数

第1学年	7人（1クラス）	合計 47人
第2学年	18人（1クラス）	
第3学年	22人（1クラス）	

学校生活

【通学】徒歩、公共交通機関、
保護者による送迎
【給食】選択制（持参or弁当型給食）

特別の教育課程（概要）

- 各学年の総授業時数を770時間に設定。
- 新たな教科・時間「科学の時間」「創造工房」「ヒューマン・タイム」で社会、理科、美術、技術・家庭、道徳、特別活動の特性を活かした授業を実施。
- 「科学の時間」・・・社会、理科を基にした新教科。
- 「創造工房」・・・音楽、美術、技術・家庭を基にした新教科。様々な色・音・素材等と出会う体験活動。
- 「ヒューマン・タイム」・・・道徳、特活を基にした新教科。仲間と交流を深める。

不登校生徒等の実態に配慮した工夫

- 1日5時間（50分授業）、始業時刻を9：30、下校時刻を15：20に設定。月・水・金は16：30まで放課後遊び。
- 全校生徒を4つに分けた縦割りグループで様々な活動。
- SC3名、SSW1名を配置し、生徒・保護者を支援。



← 教室



← ワーク
スペース



← フリー
スペース

学校コンセプト（目指す学校像）

「ありのままの自分で学ぶ」

学校概要

(※令和5年4月1日時点)



教職員
配置状況

校長、教頭、教諭（13名）、
講師（常勤2名、非常勤2名）、
養護教諭、専門主事、事務職員

在籍者数

第1学年	10人（1クラス）	合計 40人
第2学年	11人（1クラス）	
第3学年	19人（1クラス）	

学校生活

【通学】徒歩、公共交通機関、自転車、
保護者による送迎
【給食】なし（職員と同様に弁当注文可）

特別の教育課程（概要）

- 各学年の総授業時数を770時間に設定。
- 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、技術・家庭、外国語、道徳、特別活動を削減し「セルフデザイン」及び「ウォームアップ・クールダウン」という特別の教科領域を設置。
- 「セルフデザイン」・・・生徒の個性を伸ばしつつ自己肯定感育成を目指す制作学習。
- 「ウォームアップ・クールダウン」・・・よりよい生活の仕方やセルフコントロールスキルの育成を目指す。

不登校生徒等の実態に配慮した工夫

- 1日4時間（50分授業）、始業時刻を9：30、下校時刻を14：35に設定。
- 地域人材を活用した学校行事や他者との関わり方やコミュニケーション能力を育成する学習の実施。
- 個別のカルテを作成 → 個別の支援を全職員で実施。



←Eラーニング
ルーム



←音楽室



←図書室

学校コンセプト（目指す学校像）

「①基礎的・基本的な学力の向上および体力の充実」

「②社会性の育成」

「③基本的な生活習慣の確立」

学校概要（※令和7年4月1日時点）

教職員配置状況

校長（兼務）、副校長（兼務）
教諭（6名）、講師（5名）、
養護教諭、SC、教育支援嘱託員、
SSS、学校生活サポーター（2名）



在籍者数	第1学年	19人（1クラス）	合計 46人
	第2学年	10人（1クラス）	
	第3学年	17人（1クラス）	
学校生活	【通学】 徒歩、公共交通機関、自転車、 保護者による送迎 【給食】 あり（センター方式）		

特別の教育課程（概要）

- 各学年の総授業時数を910時間に設定。
- 新教科「キャリア・デザイン学習」を設置。具体的な中身は以下の三つ。
- ①「探究の時間」・・・得意なこと、興味関心の高いことについて主体的に学ぶ。
- ②「表現の時間」・・・音楽、美術、技術・家庭の基礎知識を身に付けながら、自己表現力を高める。
- ③「体験の時間」・・・様々な体験活動や行事を通じて、多様な価値観を認め合う。

不登校生徒等の実態に配慮した工夫

- 1日5時間（50分授業）、始業時刻を9：00、下校時刻を15：40（火・木は14：30）に設定。
- 放課後（60分間）に、希望者が各教科等の学び直しや復習をする「リ・ラーニング」を実施。
- 昼食時には班編成を固定せず、生徒同士の交流を促進。



← 教室



← 校外
体験学習



← フリー
スペース

学校コンセプト（目指す学校像）

「人とのつながりの中で自分の可能性に気付き、
新たな一歩を踏み出すことができる学校」

学校概要

(※令和7年4月1日時点)

教職員
配置状況

校長、教頭、
教諭（14名）、
養護教諭、事務職員、
SC、SSW、SSS



在籍者数	第1学年	23人（1クラス）	合計 95人
	第2学年	29人（1クラス）	
	第3学年	43人（2クラス）	
学校生活	【通学】徒歩、公共交通機関、自転車、 保護者による送迎		
	【給食】あり（センター方式）		

特別の教育課程（概要）

- 各学年の総授業時数を770時間に設定。
- 総合的な学習の時間では、体験的な活動を多く実施。
- 新教科「創造・表現」では、興味や関心に応じて、音楽、美術、技術・家庭の内容を学習。
- 新教科「キャリア・デザイン」では、ソーシャルスキルを身に付ける活動やストレスマネジメント力を高めるための自分と向き合う時間等を設定。
- 放課後（30分間）に興味のあることに取り組む時間を確保。

不登校生徒等の実態に配慮した工夫

- 1日4時間（45分授業）、始業時刻を9：30、下校時刻を15：25に設定。
- 教室以外の居場所（図書室など）づくりを充実。
- 「学校で学びたい」という生徒の意思を尊重し、対面・一斉での授業を重視。授業は常時複数の教員が指導・支援。



← 教室



← 面談室



← 図書室の
リラックス
スペース